

2010年報告

地球に愛をこめて

草の根運動から大きな夢の実現に向けて

セントルシアに早めのクリスマス



青年のための映画上映会を行う。
(マザー・テレサ、イコン伝説)
青少年が志を持てば人生が変わると話す。Boys, be ambitious in Christ!



セントルシアにハリケーン襲来

30時間の停滞でダムが決壊
観光業、バナナ栽培にも大きな被害が!



いたるところで道路が崩壊してしまい、家屋の倒壊したところも。学校も水浸しになった。(現地スタッフより)

We love "service for peace" ~平和の為の奉仕~

国内外での活動報告

- 2010年 9月25日 ARMS DOWNキャンペーン参加
- 10月14日~ 海洋博覧会に向けて 麗水(ヨス)万博事務局訪問、開催地視察
- 10月24日 子どもCOP10参加
- 2010年12月 7日~ セントルシア ハリケーン被災緊急支援へ

●環境問題は深刻な課題であり、愛・地球博の際にもシンポジウムのテーマにしました。名古屋で開催されることになったCOP10にも関心を寄せていましたが、国同士の利害関係が先立ち期待が持てない状況でした。そこに理事長の知人より、子どもCOP10へのお誘いがあり参加させて頂くことになりました。

子どもCOP10

国際子ども環境会議
2010年10月24日

世界から集まった子どもたちが熱い議論を展開

●子ども会議の様子

「私たちが将来のリーダー、その重要性を理解して議論しましょう」そんな声で始まった会議だった。子どもたちは積極的に発言し、大人たちに負けない熱い議論が交わされた。子どもたちも「大人になってから行動するのでは遅い」とよく分かっている。中には「子どもが大人のよい見本になるのが大事」という手厳しい意見も。議論は夜遅くまで続き、生物多様性を守るために《自分たちにできること》《大人たちへの要望》として『子どもCOP10あいち・なごや提言』案がまとめられた。

◆◆◆ 子どもCOP10あいち・なごや提言 ◆◆◆

○自分たちにできること

- ・植樹
- ・外来種(ペット)に責任を持つ
- ・ごみを捨てない
- ・食べ残しをしない
- ・リサイクル
- ・紙資源を大切にす
- ・自然と触れ合う
- ・CEPA
- ・エネルギーの節約

○大人への要望

- ・生物多様性保全のための法律の制定
- ・開発への配慮
- ・地産地消
- ・必要な分だけ採る
- ・海洋保護地域の制定
- ・植樹のための利益還元
- ・強いポスト2010年目標
- ・環境についての情報や教育



上 世界から集まった子どもたち
下 名古屋市長に提言を渡す
⇒COP10閣僚級会合で発表

●COP10の成果とこれから

子どもたちの真剣な議論に対して大人たちはどうだったのだろうか。COP10は日本の議長案を採択する形で一定の成果を上げ、日本の手腕を評価する声もあった。しかし、実行力を問われるのはこれからである。「大人たちの議論は欲のぶつかり合いで地球をどうにかしようと言う議論じゃない」と子どもたちから本質を突いた意見もあった。地球を守るためには、経済的な利害関係だけにとらわれずに、大きな視点で議論することが必要だと感じさせられる。子どもたちに見習うことが多かったと思う。

セントルシア・ハイチ支援活動

●ハイチ大地震その後・・・

ハイチでは、いまだ首都ポルトープランス近郊だけでも80万人以上がテントでの避難生活を余儀なくされている。昨年10月下旬からコレラが流行し始め、11月の暴風雨でテントが水につかり感染が拡大している。すでに死者3,500人以上、感染者は17万人に達しようとしている。今後2、3年はコレラの流行が続くとの観測もあり、依然として復興は困難な状況だ。

●セントルシアでは・・・

一方、前回訪問時にハイチ支援の約束を交わしてきたセントルシアでは、昨年11月ハリケーンの被害に見舞われた。

30時間も停滞したハリケーンのために、ダムが決壊し飲料水の供給もままならず、道路が寸断されて大変な状況になっているとの報告だ。現地のボランティアメンバーも、予定していた活動は中止せざるを得ず、復旧に追われている。水の供給がストップしているために苦しい生活をしているとのことだ。

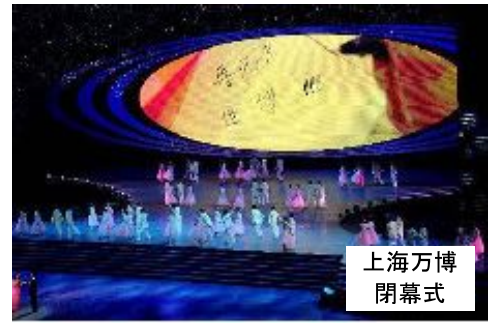
報告を受けて12月6日より阪井理事長が現地へ向かいました。



ハリケーン通過直後のセントルシア

上海万博から麗水(ヨス)へ

●2010年5月～10月にかけて上海万博が開催されました。246の国と国際組織が参加し、万博史上最多の7,300万人の入場者数を記録するなど、万博は成功を収めたと言えるでしょう。我々も当初は、愛・地球博の次は上海へ、という計画を練っていました。しかし、科学者と宗教者の合同会議という内容は、宗教者が関わるということが障害になって、日本で開催する際も困難が伴いました。まして中国では尚更困難であることが考えられ、2012年に韓国で海洋博覧会が開催されると決定されたこともあって、そちらにターゲットを向けることになりました。



上海万博
閉幕式

地球に愛をこめて

～海洋博覧会視察～
2010年10月14日

国際博覧会に向けて麗水(ヨス)視察

日本も正式に参加を表明した麗水国際博覧会、その万博の事務局と現地事務所を訪ねてきました。愛・地球博での活動を紹介をし、ヨスの万博ではどんなことが出来そうか、また万博の準備の進み具合などお話をうかがって来ることができました。

視察内容

①万博事務局にて

広報館の館長と交流を持ちました。日本で行われた愛・地球博での、パートナーシップ事業による市民参加の盛り上がりに関心を持って下さり、我々が行ったイベントも好意的に受け止めてくれました。

②開発の進む麗水駅周辺

万博に向けてのインフラ整備が着々と進んでいます。

③順天の民族村、国際自然遺産（国際自然博覧会開催予定）
万博で文化交流のイベント開催なども想定して周辺地域も視察した。

④あわび養殖場

麗水では漁業が盛んで養殖も行われている。養殖事業は今後の世界的な食料問題の解決のため、発展途上国の支援のために活かすことが出来ないかと考えている。

（ちなみにアワビの餌は昆布類で、体にとってもいい！）



阪井理事長⑤と麗水万博 広報館館長⑥



開発が進む麗水駅周辺



順天の民族村



養殖場
鮑の稚貝

海外ニュース

核兵器全廃に向けて！

広島遺産 核兵器のない世界

ノーベル平和賞受賞者サミット広島で開催 2010年11月12～14日

ノーベル平和賞受賞者6名と13団体が集い上記のテーマで討議を進めた。体調不良で欠席したゴルバチョフ元大統領からは、「受賞者がまず道徳的な立場を取らなければならない。核兵器の備蓄をやめ、最終的には廃絶しなければならない」との声明が届いた。「市民が動かなければ核廃絶は実現しない」「政府の意思決定がなければ核兵器の廃棄はできない」それぞれの立場で出てくる意見は、どちらも正しいのだろう。サミットは核兵器禁止条約の早期実現を目指すことで一致した。

残念だったのは、期待の高まっていたオバマ大統領の広島訪問が実現しなかったことだ。米国内の情勢など、様々な要因が考えられるが、核廃絶への道は簡単ではないと感じさせられる。

あなたもちょっとボランティアしてみませんか



気付いたときに募金していただけます。

募金箱には、アクリルボードで作成したもの（店舗用）とペットボトルをリサイクルしたもの（主にご自宅用）の、2種類があります。募金は随時必要なところへ支援させて頂きます。



- ハイチ大地震支援
- セントルシア支援
ハリケーン被害支援
青少年健全育成のための支援
- カンボジア支援
井戸掘り基金
学生リーダー育成
モデル村開発etc.

地球に愛をこめて Life forum Volunteer Charity

草の根運動から大きな夢の実現に向けて

NPO法人ライフフォーラムジャパン

この法人はボランティアの実践活動を通じて、市民にボランティア精神を啓蒙し、国内外のボランティア団体に協力と支援をし、さらに、健康な地球環境保全のために必要な研究開発を通じ、地域社会への貢献と世界平和の為に活動する。（定款抜粋）

LFJ事務局 〒465-0084 名古屋市名東区西里町1-14 西里パークマンション103号

LFJ万博推進センター 〒460-0006 名古屋市中区葵1-27-3 染木第二ビル401号

電話 052-705-1553 FAX 052-705-1554

ホームページ <http://www5e.biglobe.ne.jp/~lfj/>

E-mail lifeforum@mte.biglobe.ne.jp

郵便振替 口座番号00880-3-55649号

加入者名 特定非営利活動法人ライフフォーラムジャパン

※御支援のお振込の際には、通信欄空白に、御意見・御要望などをお書き添え頂ければ幸いです。

ARMS DOWN! 核兵器廃絶へ 1000万署名



元国連総会議長
ミゲル・デ・スコット・ブロックマン神父

キャンペーン終了式典に参加

「ARMS DOWN!」共にすべてのいのちを守るためのキャンペーン

2010年 9月25日 会場：奈良 東大寺

宝積玄承氏（地球に愛をこめて実行委員）の紹介でWCRP(*1)の創立40周年記念事業に参加させていただきました。このキャンペーンはWCRPの青年たちを中心に行われたもので、核兵器廃絶、軍事費の削減を訴え、1,000万名の署名が集まったとのこと。「地球に愛をこめて」の核兵器全廃の運動を進める励みになるものでした。

ARMS DOWNとは『自分の幸せや安全・安心というものは、他者の幸せや安全・安心が確保されてはじめて得られる』というShared Securityの考え方のもと、戦争をやめ、お互いのいのちを心から尊重し合える世界を築くために核兵器廃絶と世界中の国の軍事費10%削減、その費用を国連ミレニアム開発目標の達成のために用いることを主張した署名運動。（*1）世界宗教者平和会議

地球に愛をこめて



2000年 国連ミレニアムサミット



インド大統領



2005年 愛・地球博

核兵器全廃条約の
国連上程に向けて…